

令和7年度  
病院における医薬品安全性情報の  
入手・伝達・活用状況等に関する調査  
(調査対象：医師)

主な調査結果

調査概要	3
回答者、回答施設の概要	4
医薬品情報の入手について	11
患者向医薬品ガイドについて	17
医薬品リスク管理計画（RMP）について	19

## 【調査目的】

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）では、安全対策の一環として、医薬品や医療機器の安全な使用を図るため、報告された副作用情報等をもとに、添付文書の「使用上の注意の改訂」等の安全対策を厚生労働省と連携して検討・決定するとともに、情報発信等の業務を実施し、全国の医療機関等との情報交換を通じて、安全対策を推進している。

本調査は、講じた安全対策措置を確実に実施し、患者のより一層の安全を図るため、医療機関における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況を把握し、安全性情報の活用策を検討することを目的として実施した。

## 【調査対象】

全国の病院のうち40%<sup>※1</sup>：3248施設

※1：都道府県別に病床数を考慮し、無作為抽出した。

## 【調査期間】

令和7年6月16日～令和7年7月28日

## 【調査方法】

調査対象施設の医薬品安全管理責任者宛てに調査票を郵送し、医師に回答を依頼した。回答者による自記式アンケート調査とし、回答方法はインターネット上のウェブ調査票での回答とした。

## 【回収状況】

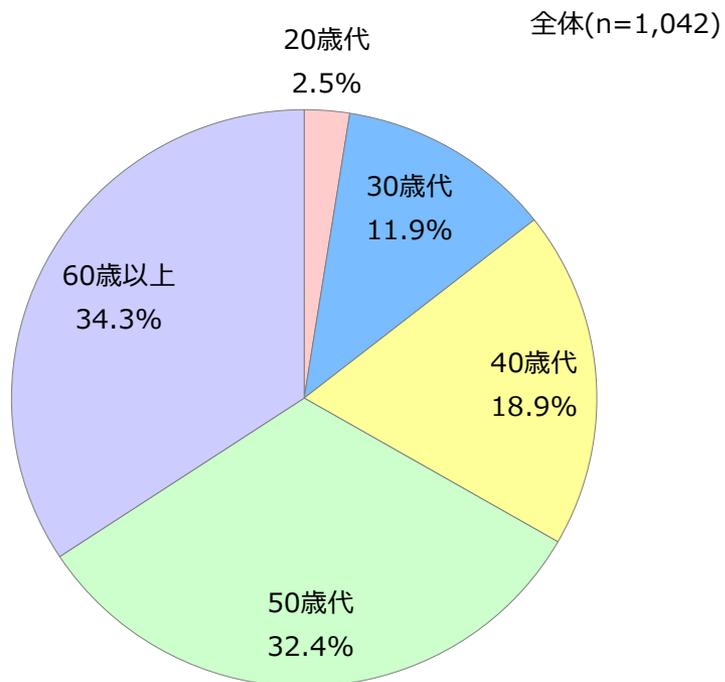
発送数：3248施設

有効回答数<sup>※2,※3</sup>：1042件

※2：令和7年7月30日を期限として回収されたウェブ調査票をもとに集計した。

※3：同一施設に所属する複数の医師が回答した場合も含むため、有効回収率は算出していない。

## 【年齢】



## 【主な診療科】

### 上位5項目

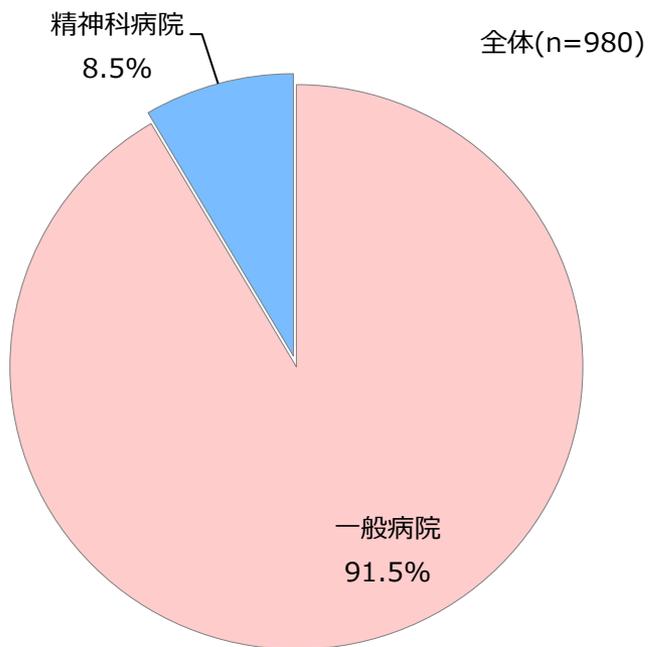
診療科	割合
内科	21.2%
精神科	9.0%
外科	7.1%
循環器内科	6.8%
小児科	5.2%

## 【薬物療法を実施している診療領域】

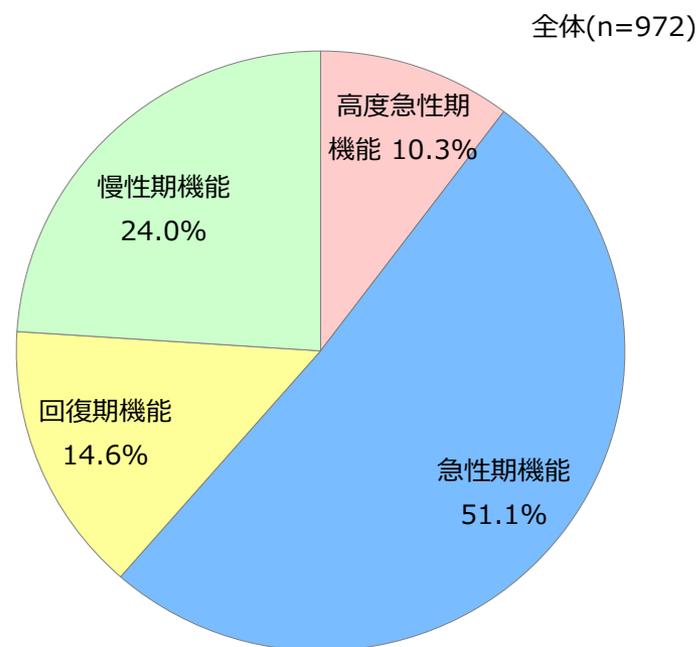
## 上位5項目

薬物療法を実施している診療領域	割合
循環器	17.6%
精神・中枢神経	13.0%
消化器	12.6%
悪性腫瘍	10.0%
神経・筋	6.6%

## 【病院種別】

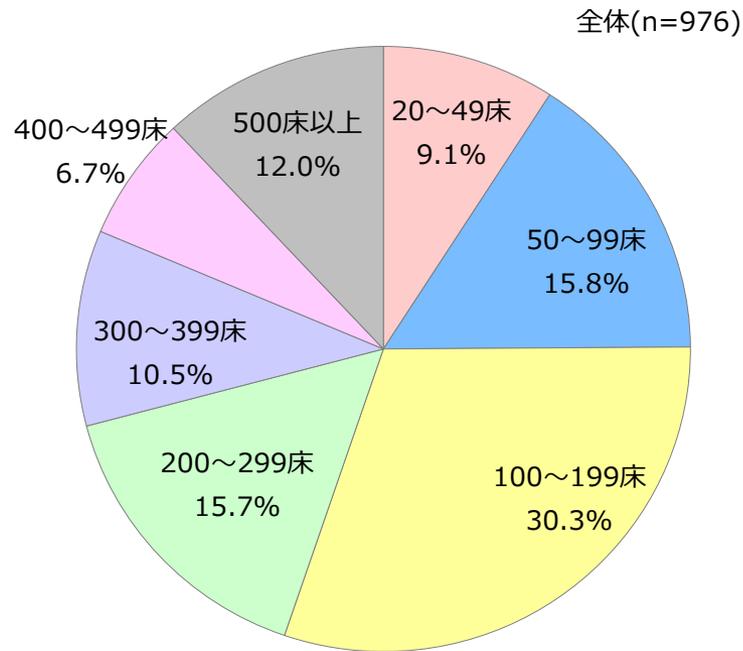


## 【病床機能】

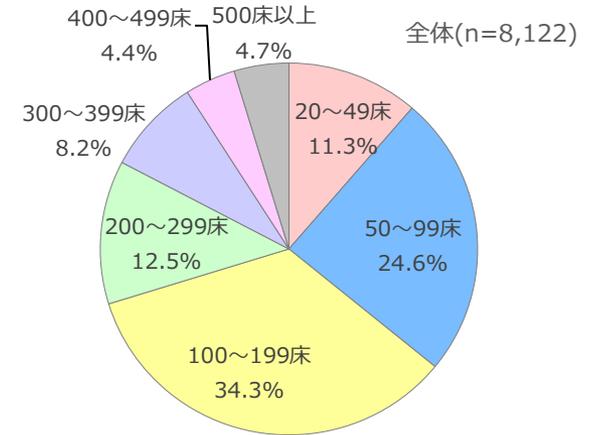


# 回答施設の概要②

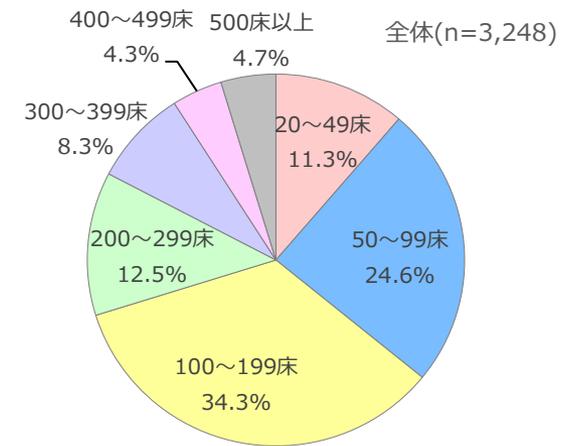
## 【病床数】



## 《全国の施設※》

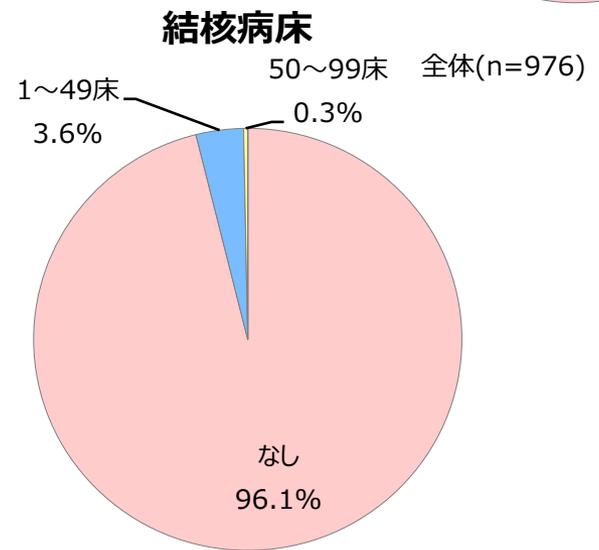
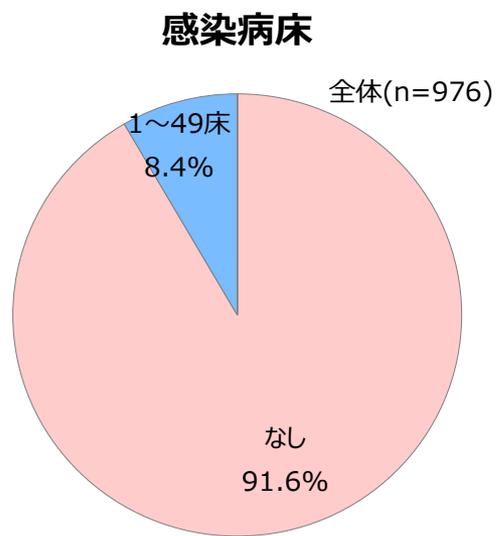
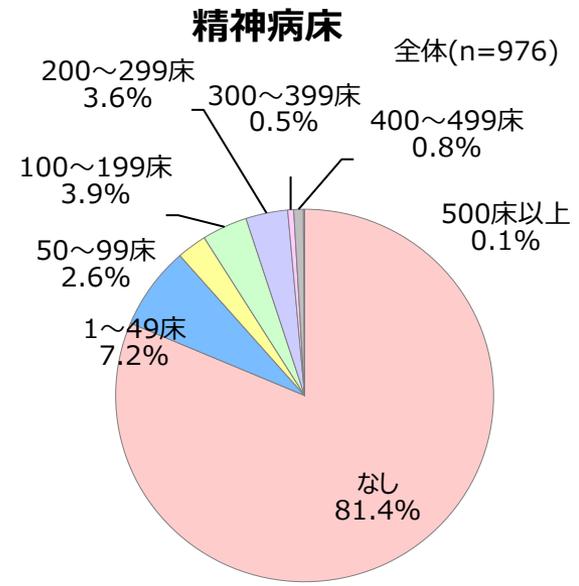
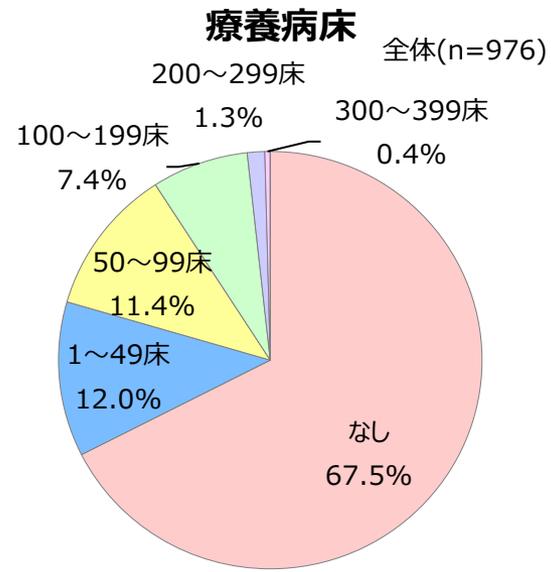
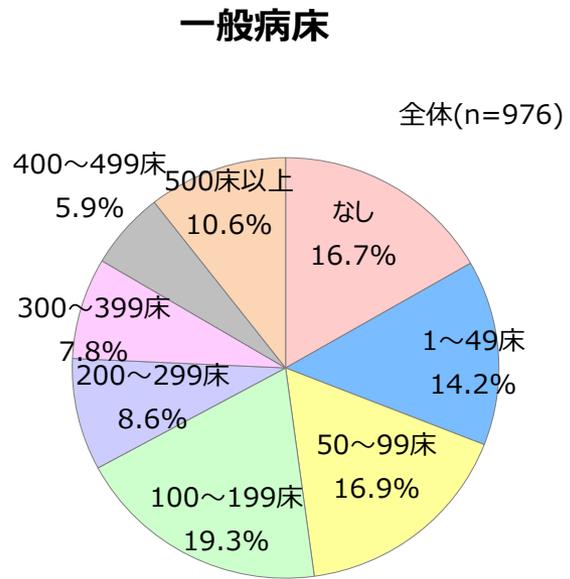


## 《調査票発送先の施設》



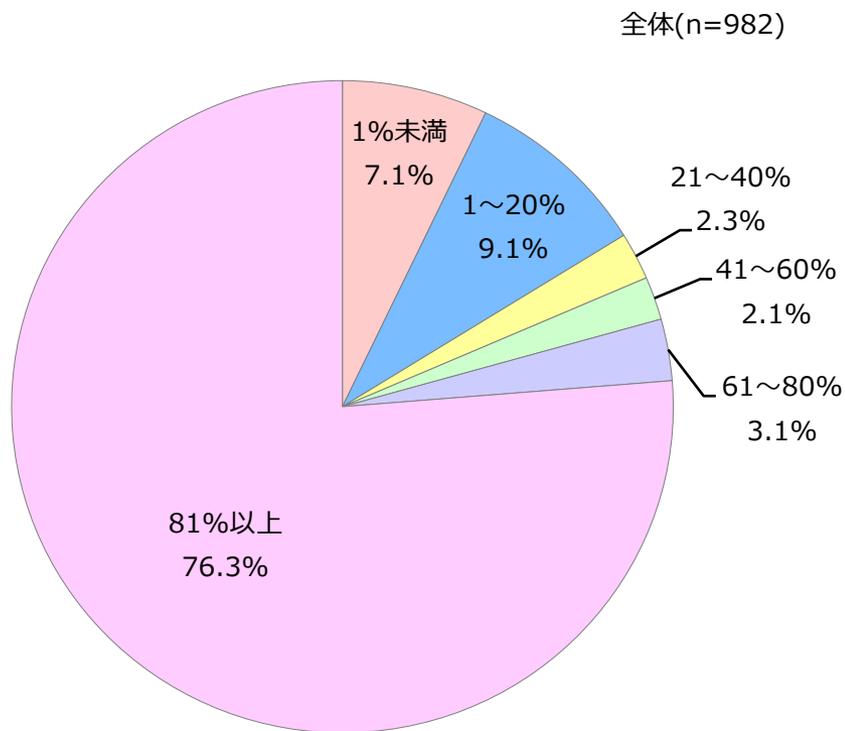
※e-Stat 医療施設調査 / 令和5年医療施設（静態・動態）調査 都道府県編  
[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&cycle=7&toukei=00450021&tstat=000001030908&tclass1=000001222880&tclass2=000001222882&tclass3val=0&stat\\_infid=000040222779](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&cycle=7&toukei=00450021&tstat=000001030908&tclass1=000001222880&tclass2=000001222882&tclass3val=0&stat_infid=000040222779)

## 【許可病床数】

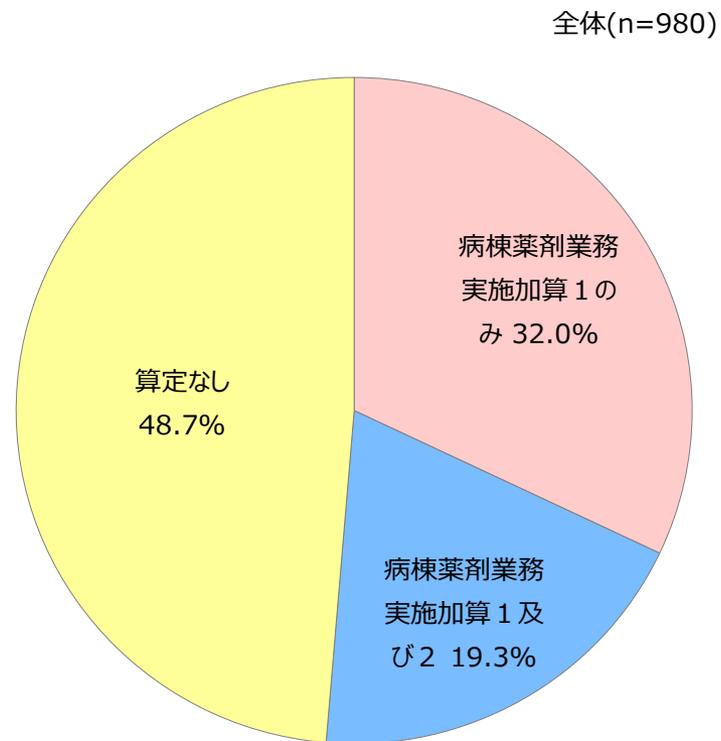


# 回答施設の概要④

## 【院外処方箋発行割合】



## 【病棟薬剤業務実施加算】

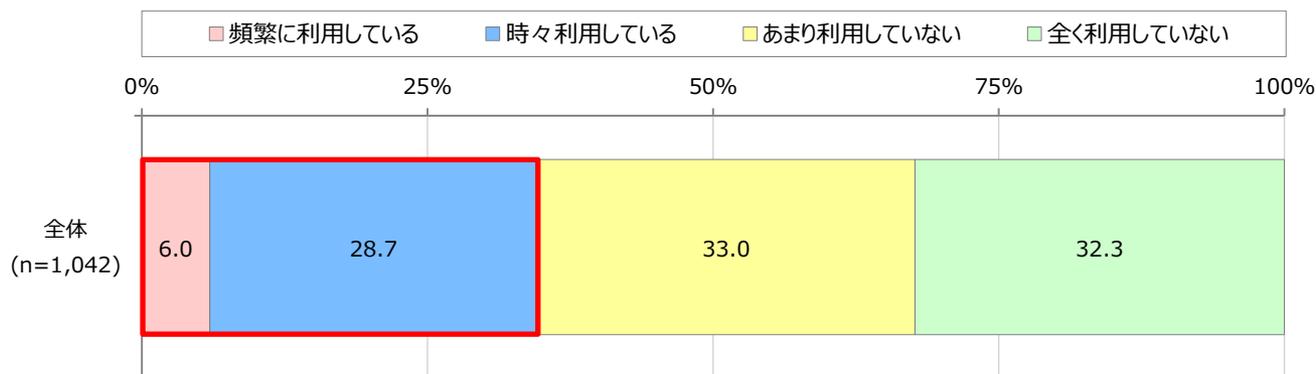


※調査票の設問のうち、参考として収集した情報は本報告書に記載しておりません。このため、設問番号に一部欠番があります。

※無回答等、回答に不備があった場合、当該設問の集計対象から除外しているため、同一の回答施設を対象としている設問間で回答数が異なる場合がございます。

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-1.PMDAは医薬品等の審査、安全対策、健康被害救済等を行っている厚生労働省所管の独立行政法人です。ウェブサイトでは電子化された添付文書（以下「電子添文」といいます）等の医薬品情報を提供しておりますが、PMDAウェブサイトを利用したことがありますか。（1つ選択）



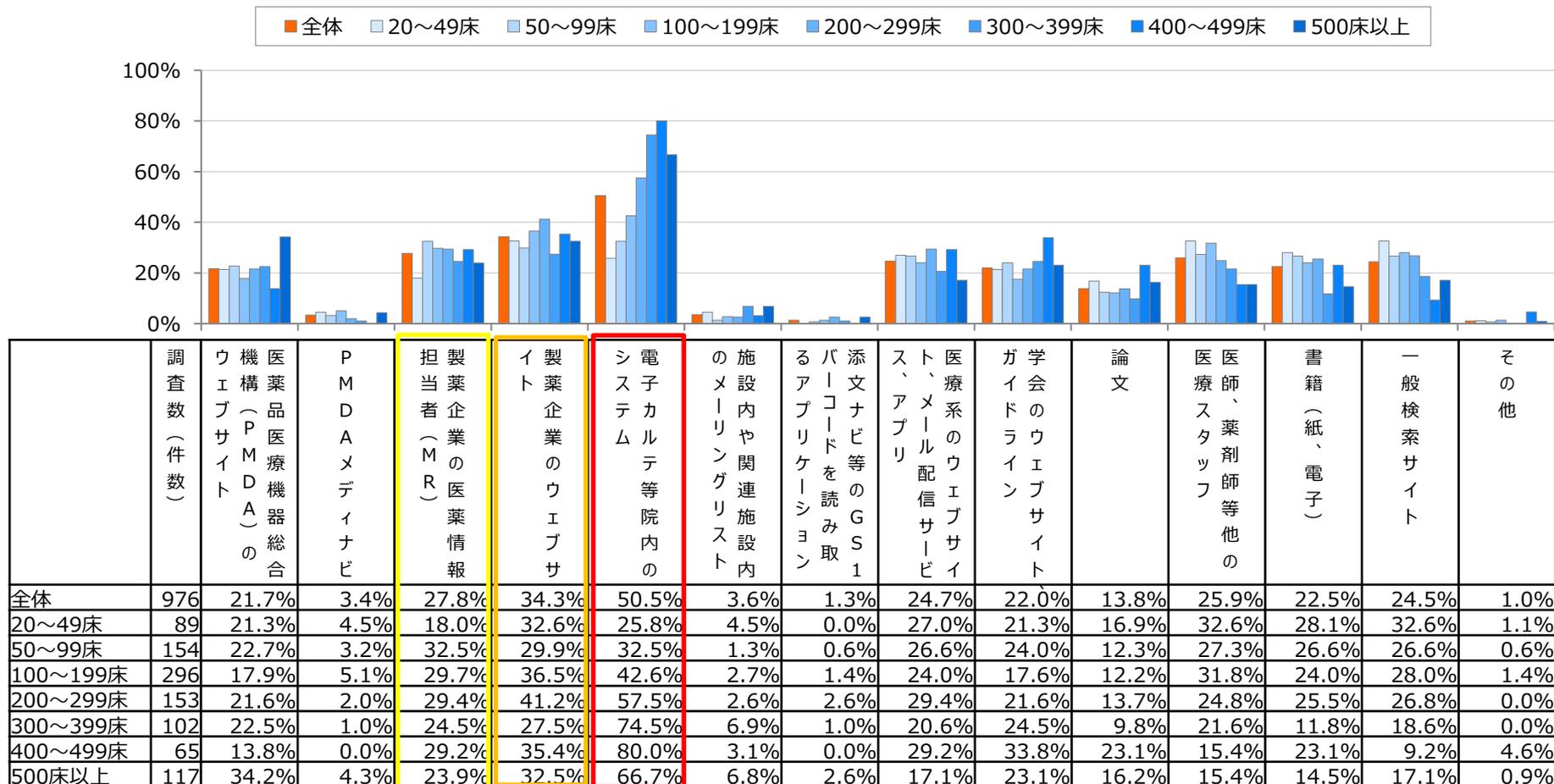
PMDAウェブサイトを利用していると回答した医師※は34.7%であった。

※「頻繁に利用している」「時々利用している」を合計

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-2. 電子添文やその他個別製品の医薬品情報について、主にどの媒体から入手していますか。（複数選択可）

《電子添文、病床数別》



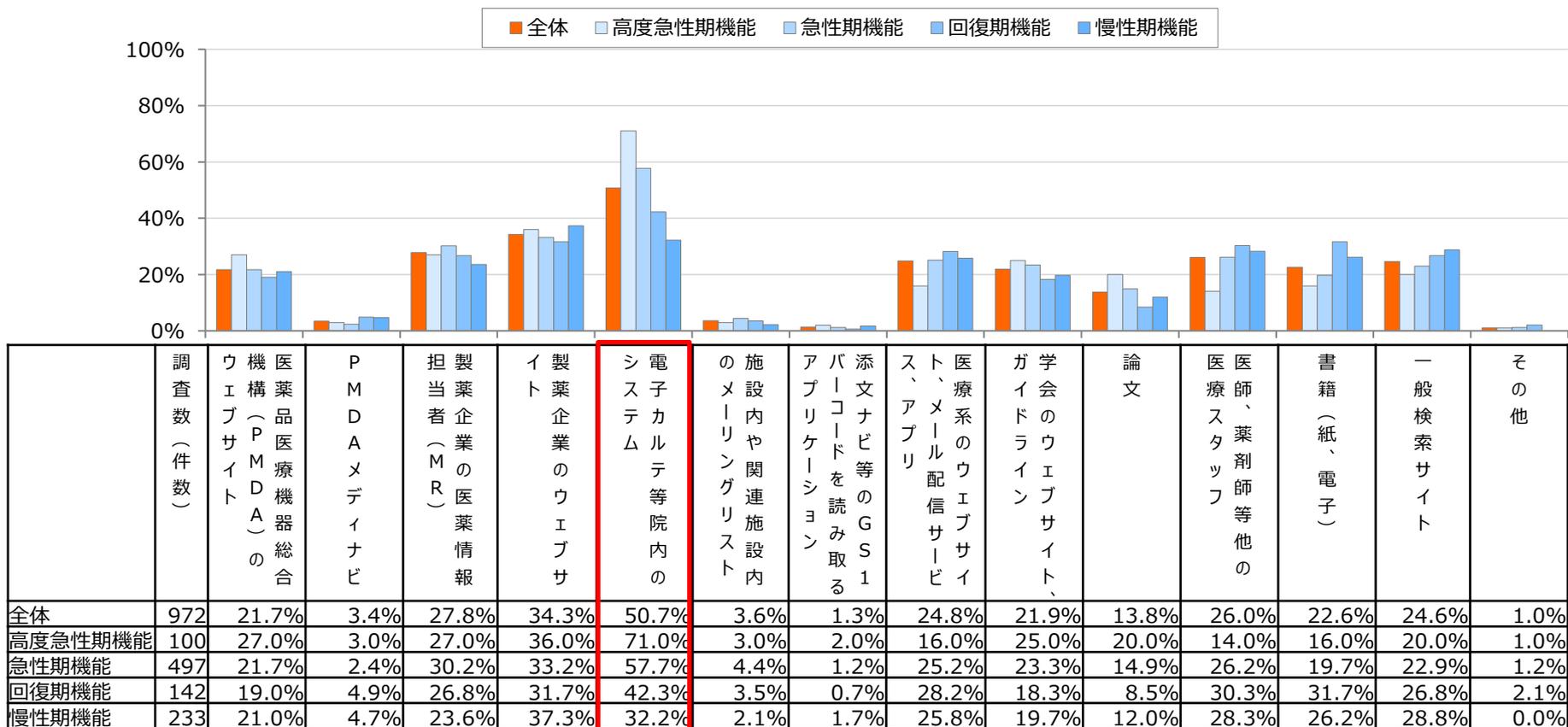
「電子カルテ等院内のシステム (50.5%)」が最も多く、次いで「製薬企業のウェブサイト (34.3%)」、「製薬企業の医薬情報担当者 (MR) (27.8%)」が挙げられた。

病床数別にみると、病床数が多い施設の医師ほど「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-2. 電子添文やその他個別製品の医薬品情報について、主にどの媒体から入手していますか。（複数選択可）

《電子添文、病床機能別》

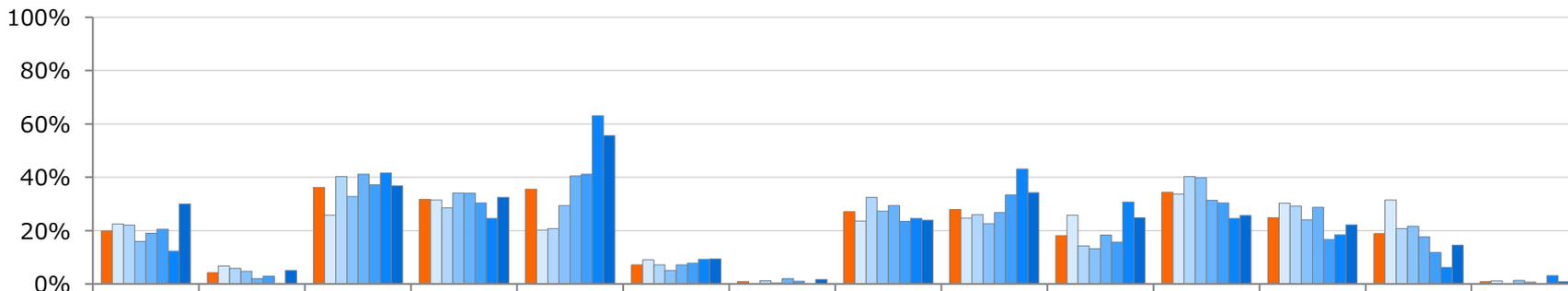


病床機能別にみると、高度急性期機能の施設では「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-2. 電子添文やその他個別製品の医薬品情報について、主にどの媒体から入手していますか。（複数選択可）

《その他の医薬品安全性情報、病床数別》



調査数 (件数)	ウェブサイトの医薬品医療機器総合情報 (PMDA) のウェブページ	PMDAメディアナビ	製薬企業の医薬情報担当者 (MR)	製薬企業のウェブサイト	電子カルテ等院内のシステム	施設内や関連施設内のメーリングリスト	添文ナビ等のGS1バーコードを読み取るアプリケーション	医療系のウェブページ、メール配信サービス、アプリ	学会のウェブページ、ガイドライン	論文	医師、薬剤師等他の医療スタッフ	書籍 (紙、電子)	一般検索サイト	その他	
全体	976	19.9%	4.2%	36.2%	31.8%	35.6%	7.2%	0.9%	27.2%	27.9%	18.1%	34.3%	24.8%	18.9%	0.9%
20~49床	89	22.5%	6.7%	25.8%	31.5%	20.2%	9.0%	0.0%	23.6%	24.7%	25.8%	33.7%	30.3%	31.5%	1.1%
50~99床	154	22.1%	5.8%	40.3%	28.6%	20.8%	7.1%	1.3%	32.5%	26.0%	14.3%	40.3%	29.2%	20.8%	0.0%
100~199床	296	15.9%	4.7%	32.8%	34.1%	29.4%	5.1%	0.3%	27.4%	22.6%	13.2%	39.9%	24.0%	21.6%	1.4%
200~299床	153	19.0%	2.0%	41.2%	34.0%	40.5%	7.2%	2.0%	29.4%	26.8%	18.3%	31.4%	28.8%	17.6%	0.7%
300~399床	102	20.6%	2.9%	37.3%	30.4%	41.2%	7.8%	1.0%	23.5%	33.3%	15.7%	30.4%	16.7%	11.8%	0.0%
400~499床	65	12.3%	0.0%	41.5%	24.6%	63.1%	9.2%	0.0%	24.6%	43.1%	30.8%	24.6%	18.5%	6.2%	3.1%
500床以上	117	29.9%	5.1%	36.8%	32.5%	55.6%	9.4%	1.7%	23.9%	34.2%	24.8%	25.6%	22.2%	14.5%	0.9%

「製薬企業の医薬情報担当者 (MR) (36.2%)」、「電子カルテ等院内のシステム (35.6%)」、「医師、薬剤師等他の医療スタッフ (34.3%)」、「製薬企業のウェブサイト (31.8%)」と回答した医師が多かった。

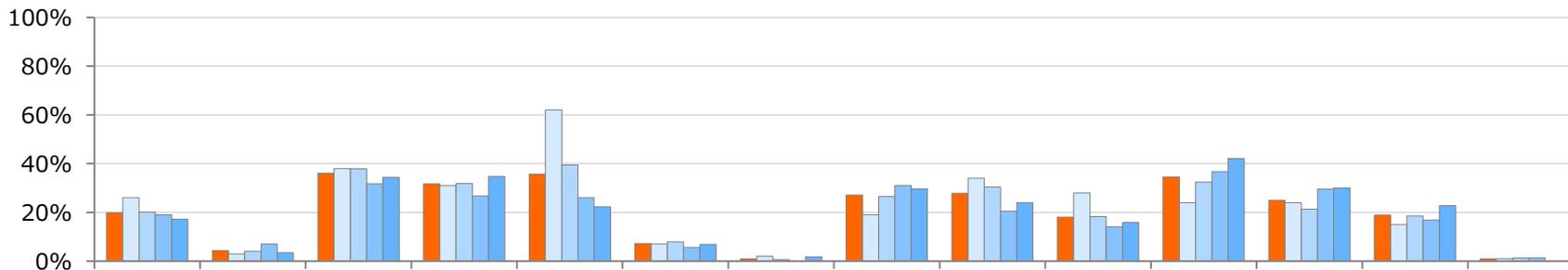
病床数別にみると、病床数が多い施設の医師ほど「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-2. 電子添文やその他個別製品の医薬品情報について、主にどの媒体から入手していますか。（複数選択可）

《その他の医薬品安全性情報、病床機能別》

■ 全体 ■ 高度急性期機能 ■ 急性期機能 ■ 回復期機能 ■ 慢性期機能



	調査数 (件数)	医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のウェブサイト	PMDAメディアナビ	製薬企業の医薬情報担当者 (MR)	製薬企業のウェブサイト	電子カルテ等院内のシステム	施設内や関連施設内のメイリングリスト	コードを読み取るアプリ	添文ナビ等のGS1バリーション	メール配信サービス、アプリ	学会のウェブサイト、ガイドライン	論文	医師、薬剤師等の医療スタッフ	書籍 (紙、電子)	一般検索サイト	その他
全体	972	19.9%	4.2%	36.1%	31.7%	35.7%	7.2%	0.9%	27.2%	27.8%	18.1%	34.5%	24.9%	18.9%	0.9%	
高度急性期機能	100	26.0%	3.0%	38.0%	31.0%	62.0%	7.0%	2.0%	19.0%	34.0%	28.0%	24.0%	24.0%	15.0%	1.0%	
急性期機能	497	20.1%	4.0%	37.8%	31.8%	39.4%	7.8%	0.6%	26.6%	30.4%	18.3%	32.4%	21.3%	18.5%	1.2%	
回復期機能	142	19.0%	7.0%	31.7%	26.8%	26.1%	5.6%	0.0%	31.0%	20.4%	14.1%	36.6%	29.6%	16.9%	1.4%	
慢性期機能	233	17.2%	3.4%	34.3%	34.8%	22.3%	6.9%	1.7%	29.6%	24.0%	15.9%	42.1%	30.0%	22.7%	0.0%	

病床機能別にみると、高度急性期機能の施設では「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

## ■ 医薬品情報の入手について

Q1-3. 医薬品の安全性情報を入手する際、次の目的のために利用している資料はどれですか。それぞれ選択肢から当てはまるものを、よく利用している順番に3つまで選択してください。

### 医薬品の概要を得る

- ◆ 最もよく利用 (n=1,038)
  - 1位: 電子添文 (53.4%)
  - 2位: 書籍 (10.6%)
  - 3位: 一般検索サイトで検索 (6.3%)
  
- ◆ 2番目 (n=925)
  - 1位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (16.4%)
  - 2位: 医薬品インタビューフォーム (13.2%)
  - 3位: 電子添文 (12.0%)、  
薬剤師等の医療スタッフ (12.0%)
  
- ◆ 3番目 (n=805)
  - 1位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (17.1%)
  - 2位: 一般検索サイトで検索 (13.4%)
  - 3位: 薬剤師等の医療スタッフ (13.2%)

### 副作用の情報を得る (症状、頻度、対処法など)

- ◆ 最もよく利用 (n=1,037)
  - 1位: 電子添文 (56.7%)
  - 2位: 書籍 (9.0%)
  - 3位: 薬剤師等の医療スタッフ (7.5%)
  
- ◆ 2番目 (n=879)
  - 1位: 医薬品インタビューフォーム (15.5%)
  - 2位: 薬剤師等の医療スタッフ (14.8%)
  - 3位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (10.5%)
  
- ◆ 3番目 (n=770)
  - 1位: 一般検索サイトで検索 (15.7%)
  - 2位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (14.5%)
  - 3位: 薬剤師等の医療スタッフ (13.5%)

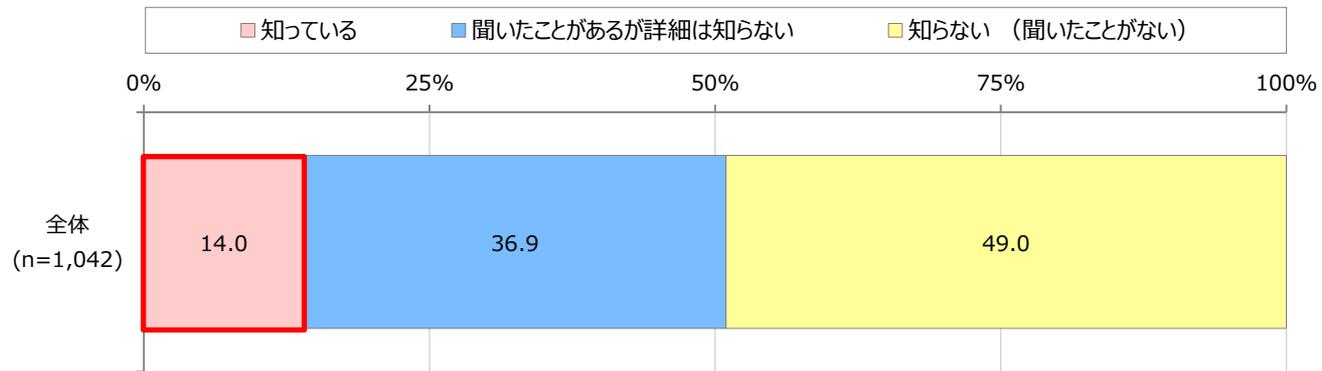
### 用法用量の情報を得る (用量調整など)

- ◆ 最もよく利用 (n=1,037)
  - 1位: 電子添文 (60.2%)
  - 2位: 書籍 (13.0%)
  - 3位: 薬剤師等の医療スタッフ (8.2%)
  
- ◆ 2番目 (n=841)
  - 1位: 薬剤師等の医療スタッフ (17.5%)
  - 2位: 書籍 (13.1%)
  - 3位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (12.8%)
  
- ◆ 3番目 (n=744)
  - 1位: 薬剤師等の医療スタッフ (16.4%)
  - 2位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト (15.7%)、  
一般検索サイトで検索 (15.7%)

医薬品の概要を得る、副作用の情報を得る、用法用量の情報を得る、いずれの目的でも最もよく利用している資料としては「電子添文」が最も多かった。

## ■ 患者向医薬品ガイドについて

Q2-1. 「患者向医薬品ガイド」をご存じですか。（1つ選択）

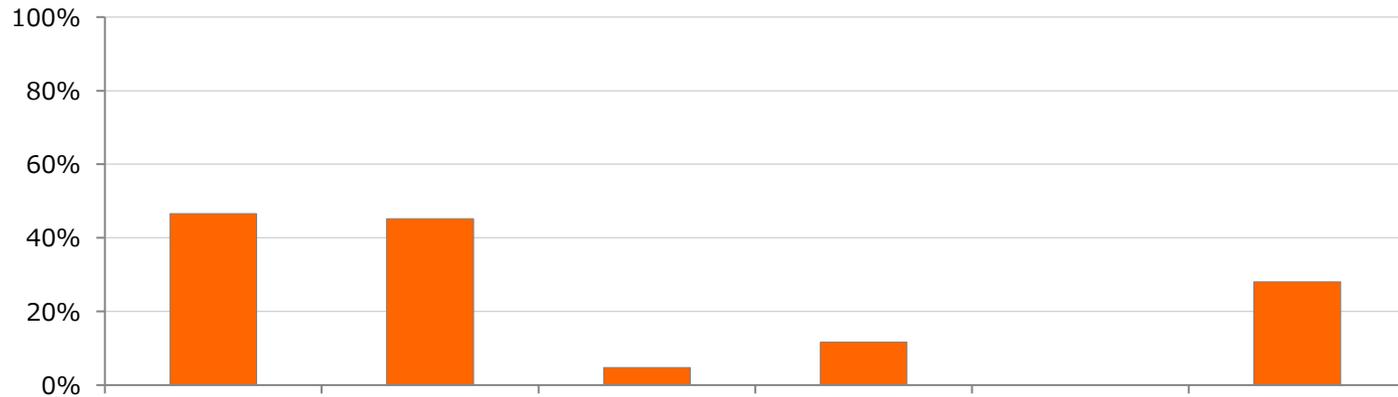


患者向医薬品ガイドを知っている医師は14%であった。

## ■ 患者向医薬品ガイドについて

Q2-2. 「患者向医薬品ガイド」を業務に活用した事例があれば教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q2-1で患者向医薬品ガイドを「知っている」と回答した医師

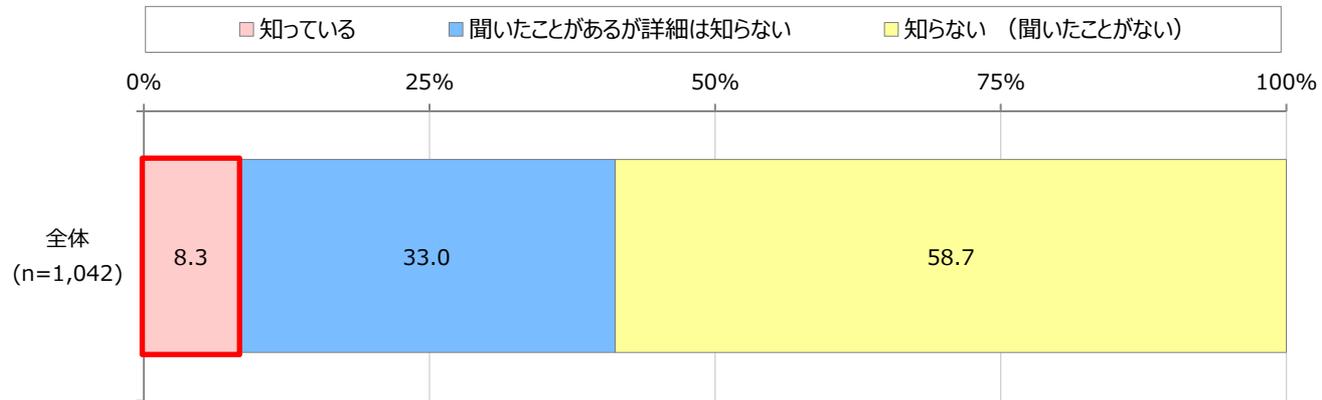


調査数（件数）	割合 (%)	活用方法
146	46.6%	薬剤（治療）を説明する際に患者へ提供した（印刷、電子媒体、URLの提供を含む）
	45.2%	患者へわかりやすく説明する用語の参考とした
	4.8%	看護師（介護ヘルパー）等への説明時に使用した
	11.6%	勉強会、研修会の材料として利用した
	0.0%	その他
	28.1%	業務に活用したことはない
全体		

ガイドを知っている医師では、ガイドの活用方法として「薬剤（治療）を説明する際に患者へ提供した（印刷、電子媒体、URLの提供を含む）（46.6%）」、「患者へわかりやすく説明する用語の参考とした（45.2%）」が多く挙げられた。

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）について

Q3-1. 「RMP」をご存じですか。（1つ選択）

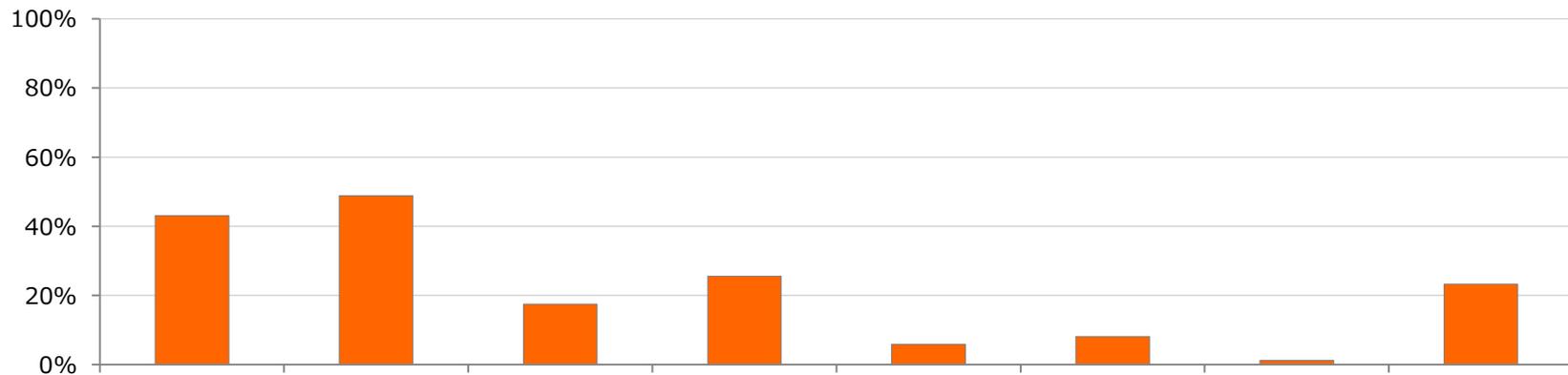


RMPを知っている医師は8.3%であった。

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）について

Q3-2.RMPや追加のリスク最小化活動のために作成される資材（RMP資材）を業務に活用した場面があれば教えてください。  
（複数選択可）

\* 回答対象：Q3-1でRMPを「知っている」と回答した医師



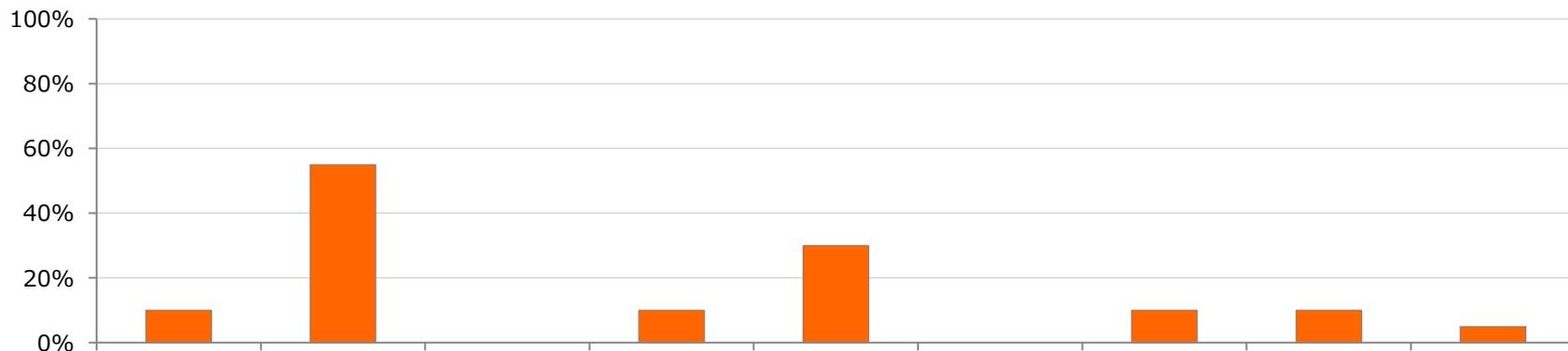
調査数（件数）	新薬採用検討時又は採用時	患者への薬剤投与前（患者選定や副作用の把握など）	薬剤での治療期間中（副作用原因薬剤評価や用量調整検討など）	患者への治療説明時（チエックリストや同意書、患者向け資材の提供など）	製造販売後調査等実施時又は実施依頼を受け	勉強会や研修会での発表、論文作成時（参考資料として参照したなど）	その他	活用したことはない
86	43.0%	48.8%	17.4%	25.6%	5.8%	8.1%	1.2%	23.3%

RMPを知っている医師では、RMP資材の活用方法として「患者への薬剤投与前（患者選定や副作用の把握など）（48.8%）」、「新薬採用検討時又は採用時（43.0%）」が多く挙げられた。

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）について

Q3-3.RMPや追加のリスク最小化活動のために作成される資材（RMP資材）を業務に活用したことがない理由を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q3-2で「活用したことはない」と回答した医師



調査数（件数）	具体的なかわどからよないか活用	活用する機会がないから	活用するべき理由がわから	RMPやRMP資材を読	添付文書やインタビューフォームなどの他の情報で十分であるから	入手方法がわからないか	資材の内容が患者さんに	RMP資材ではない資材（いわゆる販売促進資材）と内容が変わらないから	その他
全体 20	10.0%	55.0%	0.0%	10.0%	30.0%	0.0%	10.0%	10.0%	5.0%

RMPを活用したことがないと回答した医師では、その理由は「活用する機会がないから」が55.0%と最も多く、次いで「添付文書やインタビューフォームなどの他の情報で十分であるから（30%）」が挙げられた。

## ■ 医師向け調査（まとめ）

- PMDAウェブサイトを利用していると回答した医師※は34.7%であった。  
※「頻繁に利用している」「時々利用している」を合計
- 最新の電子添文の入手先としては「電子カルテ等院内のシステム（50.5%）」が最も多く、次いで「製薬企業のウェブサイト（34.3%）」「製薬企業の医薬情報担当者（MR）（27.8%）」が挙げられた。また、病床数が多い施設ほど「電子カルテ等院内のシステム」が多くなる傾向にあった。
- 電子添文以外の医薬品安全性情報の入手先としては「製薬企業の医薬情報担当者（MR）（36.2%）」、「電子カルテ等院内のシステム（35.6%）」、「医師、薬剤師等他の医療スタッフ（34.3%）」、「製薬企業のウェブサイト（31.8%）」が挙げられた。
- 医薬品の概要を得る、副作用の情報を得る、用法用量の情報を得る、いずれの目的でも最もよく利用している資料としては「電子添文」が最も多かった。
- 患者向医薬品ガイドを知っている医師は14%であった。
- RMPを知っている医師は8.3%であった。
- RMPを活用したことがない理由としては「活用する機会がないから」が55.0%と最も多く、次いで「添付文書やインタビューフォームなどの他の情報で十分であるから（30%）」が挙げられた。